

◆司会

それでは、ただ今から市長の定例記者会見を始めさせていただきます。市長、よろしくお願いいたします。

◆市長

はい、よろしくお願いいたします。今日の話は1件です。

職員の不祥事の再発防止についてです。先日、本市の職員がこの市役所の庁舎内において窃盗をした疑いで逮捕をされました。市民の皆さんに信頼されるべき市の職員が逮捕されるという、あるまじき事態が続いてしまったことを深くおわび申し上げます。今回逮捕された職員に関し、今後については警察の捜査状況等を踏まえ、厳正に対処してまいります。今年度に入り、4人の逮捕者を出してしまいました。このような事態は前代未聞であります。不祥事が二度と起こらないよう再発防止に全力で取り組んでいかなければなりません。まずは当然ながら、公務員としての自覚、公務員の倫理を徹底する必要がありますので、昨日、臨時に局長会議を招集しました。そこで、私から幹部職員に対して訓示を出しましたとともに、大長副市長からは全ての職員向けに通知を発出し、綱紀の粛正の徹底を強く指示したところであります。

さらに、二役と総務局で協議をした結果、緊急職員ミーティングを実施することにいたしました。これは、より現場に近い係長を中心として、職員同士が「もし、自分自身が不祥事を起こしてしまった場合、職場であるとか、家族であるとかにどのような影響を与えるか」について、それぞれ語り合うミーティングを行う、今回の件を全ての職員が自分事として捉える、そういう機会をつくりたいと思います。また、逮捕されたそれぞれの職員個別の事案につきましては、総務局の職員がヒアリングを行って原因究明図っております。その報告に基づきますと、職員が抱えた私生活や仕事などのストレスによる悩みや問題を自分一人だけでは解消、そして解決できなかったことが不祥事につながった可能性があるという目下のところ推測をしております。そこで、職員が一人で抱え込まない環境を作り出す取り組みも今後必要であると考えています。上司や同僚に相談できない悩みを相談できるよう、メンタルケアとか身体の不調、さらに法律的な問題への対応機関など、相談できる機関の情報をリスト化し携帯できるよう、カードサイズで、これがその実物でありますけれども、カードサイズの情報を全ての職員に配付することにいたしました。

さらに、職員が悩みやストレスを自覚するきっかけとなるセルフチェックも定期的に行うこととして、職員が一人で悩みを抱え込まない状況をつくっていきたいと考えております。早急に取り組めることとして、今日、以上のことをお伝えしますとともに、今後は専門家の意見も聞きながら、より深く原因の分析を行い、より効果的な対策を講

じていきたいと考えております。大変申し訳ありませんでした。

◆司会

それでは、ただ今の発表につきまして、皆様からのご質問をお受けしたいと思えます。いかがでしょうか。先に読売新聞さん、お願いいたします。

◆読売新聞

読売新聞社です。原因もある程度分析されているようですが、今年度4件も続いた背景には、どういうふうな状況があると、要するに市役所で上司に相談できる環境が整っていないというか、その辺があるということでしょうか。

◆市長

あくまでヒアリングに基づいた、今のところは推測でありますけども、そういう職場環境があったのかなというのも一因であります。

◆読売新聞

それは、改善していくということですね、今後。

◆市長

そうですね。

◆読売新聞

なるほど。臨時局長会議を開かれたのは、昨日とおっしゃいましたか、これは。

◆市長

昨日です。

◆読売新聞

昨日ですね。分かりました、取りあえず。

◆司会

そのほかいかがでしょうか。静岡新聞さん、お願いいたします。

◆静岡新聞

静岡新聞です。今回の窃盗の事案ですけれども、職員が逮捕されたことはもとより、勤務先の職場で犯行を行った。そして、被害者も市の職員であるということ、非常に

重い事態だと思うんですが、その辺りを市長はどのように受け止めてらっしゃいますか。

◆市長

もう本当に重い事態だと受け止めております。全て同じような案件がないか調査をして、こういうことも判明をしたわけでありましてけれども、まことに残念であります。

◆静岡新聞

あと、ちょっと、今の読売さんの質問とも重なるのですが、市長ご自身としては、こういった4人の逮捕者が出ているということの理由を、どのように考えていらっしゃいますか。

◆市長

先ほど申し上げましたとおり、やはり一人で悩みを抱え込んで、それをどこにも言えなかったというストレスといいますか、その持っていくところが犯罪につながってしまった可能性があるということ、ヒアリングでいろんな調書を見てみますと感じています。

◆静岡新聞

その前の逮捕者の、東海市役所で忍び込んで現金を盗んだ、その被害があつて内部で調査をして判明したのか、その辺りはいかがなんでしょうか、今回。

◆市長

これは、実務的に時系列がありますので、総務局長から答えてもらいますけれども、前後はいろいろあるようですね。それも本当に深刻なことであります。

◆総務局長

総務局長です。今の全庁の調査というお話ですが、実は今回の案件ですが、今回、昨日逮捕された職員の案件ですが、そのことについて、職員のほうから10月上旬に相談がございました。まず、この相談を受けて、その受けた日の直後に東海市役所の案件が逮捕者が出ております。それで、東海市役所のほうの関係では、報道出ておりますが、ほかに静岡県とか、神奈川県とか、愛知県というのが報道としては出ているわけですが、その部分については、実際に本市としては、まだこれは確認ができていない状態ではありません。東海市役所のほうに伺いましたけれども、そういったところについては捜査に支障があるということで、回答はもらえておりません。

ですが、その報道がありましたので、本市としましては、今回の逮捕者の件の相談もありましたので、それも併せて調査を進めたということになります。前後関係としましては、東海市役所の案件が先というわけではなくて、その前に今回の案件の相談が職員

からあって、全庁の調査をしたというような、そういう経緯というふうになっておりません。

◆静岡新聞

追加でいいですか。そうすると、被害というのは、今回 5,000 円被害に遭われたということでしたけれども、それ以外にもあるのかどうかということは、いかがでしょうか。

◆総務局長

今回の案件ですが、被害を届けている職員ですが、複数回あるということで報告は受けております。ただ、その金額と回数については、これは警察のほうから、詳細については捜査に支障が生じるということで、それについては控えていただきたいというふうに強く要請を受けていますので、ちょっとお答えすることは差し控えさせていただきます。

◆静岡新聞

それは、今回被害に遭った方ということですよ。それ以外の被害というのはあるのでしょうか。

◆総務局長

それ以外につきましては、前者の東海署のほうから、そのことについては、これは捜査に支障があるということで公表はしないということで強く要請をされていますので、それについても差し控えさせていただきますというふうに思います。

◆司会

そのほかいかがでしょうか。それでは発表案件につきましては、以上ということでよろしいでしょうか。それでは、続きまして、幹事社質問に移りたいと思います。SBSさん、よろしく願いいたします。

◆SBS

SBSです。よろしくお願いいたします。まず1点目ですが、22日に桜ヶ丘病院の移転工事が再開しました。現場で移転に反対する市民が詰め寄る場面もあったと思うんですけども、いまだ反対意見が根強い中で工事を進めるという意味は変わらないのでしょうか。あと、その理由をお聞かせください。

◆市長

はい。工事を進めるという意味は変わりません。その理由として、この清水桜ヶ丘病院の移転の問題は、旧清水市以来の30年以上にわたる行政課題でした。清水地区の医療

体制を守っていくために、桜ヶ丘病院は欠くことのできない基幹病院であります。それを何とかスムーズに移転を進めていこうという取り組みをして、先人が努力をされてきましたが、なかなか思うに任せなかった。一方、国のほうでも消えた年金問題がきっかけで社会保険庁が解体をされ、そして、社会保険庁の所管だった清水桜ヶ丘病院はＪＣＨＯさんに経営が引き継がれることとなりました。ＪＣＨＯさんは、経営をしていかなければいけないという観点で全国の引き継いだ病院の整理統合の議論を進めていました。その間、私どもには、清水の桜ヶ丘病院は撤退されるということも取りざたされ、危機感を深め、平成 18 年には清水を中心に 13 万人以上の署名が集まり、そして存続を当時の行政が要望を受けました。

私はその 5 年後ですね、平成 23 年に市長を受け継いだわけではありますが、このことも一日も早い解決ということが課せられたミッションでした。そして、ＪＣＨＯさんと交渉を始めました。社会保険庁時代に高部地区大内に土地を確保しておりましたけれども、経営が変わったＪＣＨＯさんは、存続について考えるために、交通アクセスのいい場所、市民の利便性の優れたところ、あるいは救急車がアクセスしやすい等々の条件の中で、大内以外の土地を提供してくれないかという要望がありました。そして、ご存じのとおり、今の清水庁舎のところも候補地の一つに上がりましたが、尾身会長とさまざまな協議をしました。議論をしました。尾身会長から言われたことは、私もそのとおりでと思ったのですが、「土地ありきではないよね」と、「桜ヶ丘病院ありきではないよね」と、清水区全体の、あるいは静岡市全体の医療体制の充実のために、清水桜ヶ丘病院をどのような機能を持たせるか、どのような規模にするのかと、その議論をするために協議会をつくって、そこで協議をして、そして、いつまでにどこの土地でという結論を出していこうということになりました。

そして、その切り口から協議を進めた結果、ＪＣＨＯのほうから東口公園、ここを提供いただけるのだったら、私たちはここに存続をし、一刻も早く整備をしたいという結論に至り、昨年の 12 月に合意をしたところであります。いろいろ口角泡を飛ばしながらＪＣＨＯさんとは協議を進めましたが、その交渉の過程の中で人間関係や信頼関係も構築されました。尾身会長と私ももちろんですし、そして、新しく静岡市出身として、桜ヶ丘病院の院長に着任をされました内野先生と市行政の間も、さまざまな論点を議論する中で信頼関係が生まれました。私どもは「ここは津波想定域です」と、「大丈夫ですか」という前提で、あの土地を紹介しました。それに対して「大丈夫です」と、尾身会長は去年の 12 月の合意のときにも記者会見をした際、記者さんから質問をされて答えました。建物自体を災害に強いものにする、あるいは、ＪＣＨＯ所管のほかの病院、他地区の病院では、津波想定域でも立派に経営ができているという答えでありました。それでも、私どもはそれを心配する市民がいっぱいということを背負って、ＪＣＨＯさんにさらに強固な防災対策を講じてほしいというふうにお願いをしました。最初は、「清水桜ヶ丘病院だけ特別扱いにはできないよ」という考え方もありましたけ

れども、最終的には、建築費の20%は、清水桜ヶ丘病院の場合、防災対策に充てるという結論を得ていただき、そして、当初計画にはなかったホバリングのスペースもつくるということになりました。それだけJCHOさんが私どもの要望に応えてくれた。私たち自身も、行政ができることとして、エリア全体を災害に強い地域にしなければならぬという観点から、県や国とともに清水の中心地域全体を津波から守る防潮堤の整備をなるべく早く取り組んでいこうという働き掛けをしました。

県との連携がとても大事であります。その観点から、県の港湾のエキスパートを、この4月に市に招聘もしております。やはり港とともに発展をしてきた清水は、中心市街地、これ駅も含めて、全て3.11以降の津波想定域に立地しているわけですね。ですから、エリア全体を、やはり安心安全な、これからも人が賑わう地区にしていくためには防潮堤が必要であります。先週、私、来年の政府予算の国要望に行つてまいりました。そのときにも、国交省のほうに、この防潮堤について「ぜひ、国の力添えもお願いをしたい」という要望をしてきたところであります。そんなJCHOさんとワンチームになって、災害に強い、そういう病院にするべく努力をしているところであります。

一方、清水区の医療体制の充実というのは待ったなしであります。コロナ禍の最中ですから、そのことの必要性は、より、ひしひしと感じております。葵区や駿河区に頼ることなく、清水区でもきちっとした、充実した医療が提供できるような体制にするためには、冒頭申し上げたとおり桜ヶ丘病院の存在が不可欠であります。尾身会長、うちの委員長をはじめスタッフの皆さんは、立派な病院をここに整備をするという意欲を大変持っております。ですので、そして、自らその病院のことについて、先日、説明会も開催をしていただきました。私たちは連携をして、一日でも早く清水の皆さんに、この病院の医療を提供するべく協力をしていくつもりであります。ですので、今回、工事はさせていただきたいということをお聞きをいたします。以上です。

#### ◆SBS

続いて、2点目ですが、先日川勝知事のコシヒカリ発言を巡って、一昨日の臨時議会で知事への辞職勧告決議案が賛成多数で可決されました。県のトップへの糾弾は、少なからず各市町だったり、県民の意識に影響があると思うのですけれども、あらためて田辺市長のご所感をお聞かせください。

#### ◆市長

今回の一連の事案を通じて、川勝知事さん、ご自身が十分自覚をされていることだと思います。私としては、コロナ禍もそうですし、さまざまな行政課題、先ほどの桜ヶ丘病院のこともそうですね。市と県の連携ということが不可欠ですし、市民の皆さんもそれを求めていると思います。ですので、市の職員と県の職員が気持ちよく協力し合って仕事ができるような環境をつくっていく、というのが努めだというふうに思っ

います。

◆司会

それでは、幹事社質問に関連するご質問を皆様からお受けをしたいと思います。いかがでしょうか。毎日新聞さん、お願いいたします。

◆毎日新聞

はい。毎日新聞です。よろしくお願いします。桜ヶ丘病院に関してなんですけど、市民の方も医療機関の重要性というのは承知をされていて、市の主催の説明会がないということに、たぶん、お怒りを持たれている部分もあると思うのですが、それに関する、この間、市からはちょっと開かないというような旨の回答があったと思うのですが、そのところをちょっと理由も含めて、説明をもう一度お願いします。

◆市長

もちろん市長の説明責任はあると思います。ただ、市主催の住民説明会だけではないというのが私の認識であります。今日、幹事社さんの質問がございましたので、ていねいめに、少し私から説明をしたというのも一つの説明方法でありますし、また 11 月の本会議でも、このことは議員さんから質問をされているので、私自身が答弁をして説明をするつもりであります。また、広報しずおかも全戸に、葵区、駿河区も含めて、配布を進めている、われわれの媒体ですので、こここのところで、今までも説明をしていきましたけれども、これからも改めて紙面を割っていくということも検討をしております。市民の皆さんが清水病院に対して不安も持っているかもしれないけれども、期待も持っているということは、私の元にたくさんの声が届いております。その思いを JCHOさんにも伝え、市民と JCHOさんの橋渡しを私自身が努めていき、そして、全力で早期開院に向けて取り組んでまいりたいと思います。

◆司会

そのほかいかがでしょうか。朝日新聞さん、お願いいたします。

◆朝日新聞

朝日新聞です。よろしくお願いいたします。今の桜ヶ丘病院の説明のところですけども、市民側としては、記者会見や議会ではなく、直接、清水区に市長自身が出向いて、今おっしゃったことも含めてなんですけれども、ちゃんと説明してほしいと、こういう場をなぜ持たないのか、ということに対して非常に怒っているということなわけですけれども、直接出向かない理由、あるいは市主催はなぜやらないのかって、その根源的なものについてはどういうふうに説明されますか。

◆市長

まず、この病院をつくる経営主体はＪＣＨＯさんです。ＪＣＨＯさんがこのような病院をつくりたいという説明をするのが筋であります。以前、大内では、移転がなかなか難しいというときにも、ＪＣＨＯさんにはその旨を伝えて、ＪＣＨＯさん自身が説明をしてほしいということで大内の自治会連合会の会合に来てもらったことがあります。そこでも、「なんで私たちはここに病院が建つということで土地を譲ったのに病院が来なくなるんだ」と、相当な反対の意見がありました。が、「そのところを、ぜひ、ご理解いただきたい」と、「中長期的に経営が安定する場所でないといけないんだ」ということを説明してもらいました。ただ、やはり私どもとすると、撤退されてほしくない、いや、ＪＣＨＯさんは何とか撤退しないように努力しているのに、地元の住民から、「もう反対、反対だ、反対だ」ということになりまして、これは、もう、そっちの方向に行ってしまうのではないかとということに危惧して、私自身がタウンミーティング、市の主催で、記者がそのとき、ここにいらっしゃったかどうか存じ上げませんけれども、私自身が８回にわたって説明会を催したことがあります。いろんな経験を私も積み重ねております。今でも自治会連合会の会合、この頃コロナで少なくはなっているんですけども、そのような会で、フラットな気持ちで清水桜ヶ丘病院について疑問を持っているので、説明してほしいというときには、私、説明をしております。葵区、駿河区でも説明しております。どういった市民がどういうことで不安に思っているのかということも大事だろうと思っておりますので、そのところは、ぜひ、ご理解をいただきたいというふうに思います。

◆朝日新聞

ありがとうございました。あともう一点ですが、よろしいですか。静岡市では、自治基本条例というのを定めていらっしゃいまして、その項目の中にも、やっぱり説明責任という項目が掲げていらっしゃいまして、市民に分かりやすく説明するということが明記されています。恐らくこの辺の部分からも含めて、市民側は、要するに反対の姿勢を持っていらっしゃる方も、いっぱい、いらっしゃるかもしれませんが、「大衆の場に来てほしい」ということを望んでいると思うのですけれども、市長ご自身、この基本条例との整合性については、どういうふうに考えていらっしゃいますか。

◆市長

当然、条例は順守していかなければなりません。そして、その条例の中で市民の皆さんに質問をされたら答えるということは、基本中の基本です。ですが、市民の皆さんにもいろんな意見があります。私が答弁したことで、「ああ、分かったよ」とおっしゃる方、たくさんいらっしゃいます。「ああ、そうだったのね」、私がそうやって説明責任を果た



したことによって、前向きな議論になるのであるならば、私は積極的に質問に説明をしていきたいというふうに思っております。

◆朝日新聞

前向き、後ろ向きも一つのやっぱり市民との意見の応酬だと思うんですけども、そういう人、いわゆるマイナスの部分も含めて、全体責任を持つのが首長さんの使命だと思うんですけども、やっぱりそれらを含めて、ご自身がもう一度、もう今、最終局面に入っていると思うんですけど、契約前ですね、そうした場合に、出向いてお話をされるお考えというのを改めてお聞きしたいのですが、ございますか。

◆市長

分かりました。そのご意見をしっかり今日は受け止めさせていただきます。

◆朝日新聞

ありがとうございました。

◆司会

そのほかいかがでしょうか。朝日テレビさん、お願いいたします。

◆朝日テレビ

はい。その桜ヶ丘病院の移転で、現地で反対を叫んでいる市民の方々の中に、公園の中に高額のマニユメントがありますよね、6,500万円でしたっけ、円形の、あれを撤去してしまう、非常に税金の無駄じゃないか、というような意見をおっしゃる方がいらっしゃるのですが、その点について、あのマニユメントの再利用というのは、どういうふうに考えていらっしゃいますか。

◆市長

あのマニユメントも、合併の際に一つの考え方に基づいてお願いして設置していただいたものと受け止めておりますので、これをどういうふうに、設計のコンセプトというものを生かしながら、活用していくかということは今、検討しているところであります。

◆司会

そのほかいかがでしょうか。中日新聞さん、お願いいたします。

◆中日新聞

中日新聞です。桜ヶ丘病院の話で、先ほどの市長の説明でも、JCHO管轄の病院の

中には津波浸水想定区域の中で経営されているところもあると話があったと思うのですが、これから津波浸水想定区域と分かっている場所に新しくＪＣＨＯの病院を建てるという、そういう例は、ほかであるのでしょうか。

◆市長

どうでしょうか。ちょっとそこら辺は、私、承知をしておりますけれども、お願いします。

◆司会

すみません。少しお待ちください。

◆保健衛生医療統括監

保健衛生医療統括監でございます。新しく病院というのは、ＪＣＨＯのほうでも私たち確認をしておりますけれども、これまで大分県の佐伯市でございます、ＪＣＨＯ南海医療センター、こちらのほうは、想定津波浸水深が２メートルから４メートルというふうにお伺いしております。また、大阪のＪＣＨＯ大阪南中央病院、こちらのほうも津波浸水域というふうに聞いておりまして、こちらのほうはもう既に運営をしているということでございます。

◆中日新聞

分かりました。そうすると、３．１１があつて、想定以上の津波が来たことで、ああいう被害があつて、そこに対して住民の人も不安を持つ人が多いと思うのですが、そこに、分かっている場所に新しく建てるという不安が大きいことに対する市長の受け止めというのはどうですか。

◆市長

先ほど説明をさせていただいた経緯があつての決断であります。昨日、共産党の市議会議員団から、来年度の予算要望をいただきました。その中にも、「桜ヶ丘病院を高台に移転をするべしだ」というような項目がありました。しかしながら、これをまた進めるとなると、今後また相当の年数がかかってしまいます。私は、マリナートも、おそらく３．１１以前に何とか間に合ったので、あそこに立地できて多くの市民の皆さんにコンサート等で活用してもらっていると思います。恐らく３．１１の後に、あの計画があつたのならば、あれは市の公共施設ですので、絶対に反対運動が起こったんだろうな、というふうに思います。今のマリナートはなかったかもしれないな、というふうにも思っています。ことほど左様に、あの３．１１の津波の映像というものは、私たちの心理に影響しているんだろうというふうに思います。

しかしながら、大きく中長期的に清水区の医療体制を考えると、また港町から発展した中心市街地が全て津波想定域にあるという清水の特性を考えると、このように決断をせざるを得なかったというのが率直な思いであります。今はこの決断に反対だとおっしゃる方もいらっしゃるということは十分承知をしていますが、そういう方々も、立派に、この病院が開院して、さらに5年、10年、そのとき私は市長ではないと思えますけれども、あのときは反対したけれども、「ああ、この病院ができてよかった」というふうに思ってくれる日が来ることを夢見て、今はしっかりJCHOさんと連携をして、開院に向けて取り組んでいきたいと思えます。ご理解をお願いいたします。

◆司会

そのほかいかがでしょうか。

◆市長

少し補足して言いますと、津波に備えるという従前の措置は、JCHOさんも行政もする、ということは申し上げました。と、ともに高齢化社会の中で利便性の高い病院をつくっていくということも、これ大きな市民要望であります。そういう点で、清水病院は昔、駅近くにあったものを広い立地を求めて郊外に移転をしました。今、村松にあります。ですから、駅周辺に総合病院があるということも、高齢化社会への対応という点でも、とても重要な観点であり、これは津波を守ると同じぐらいの着目しなければいけない論点だというふうなことも付け加えさせていただきます。

◆司会

そのほかいかがでしょうか。よろしいでしょうか。SBSさん、お願いいたします。

◆SBS

SBSです。桜ヶ丘病院の件ですけど、工事が再開したときに、現場の中に入ってしまった方がいらっしゃって中断したと思うんですけど、周りに柵を設置するというお話しがあったと思うのですが、今後そういった方に対する対策と言うと、ちょっと言葉があれですけど、対応についてはどういうふうを考えて…

◆市長

現場は取材されました？

◆SBS

別の者が行きました。

◆市長

どう対策すれば、ああいうふうなことにはならないのでしょうか。ちょっと記者のご意見をお伺いしたい。

◆SBS

柵を設置するのも、またお金が掛かるのかなとちょっと思ったのですが、市の方が毎日それに対して説明をしていくのか、市の方がいなくて、ずっとそういう状態が続くのか、ちょっと疑問に思ったのですが…

◆市長

やっぱり、それによって、また事故が起こってしまっはけませんので、毎日、毎日ローテーションを組んで、市民の皆さんが集まっていないかどうか、ということを見回りもさせてもらって、安全な工事ができる環境を整えていこうと取り組んでいるところです。

◆司会

そのほかいかがでしょうか。

幹事社質問に関連するご質問は、以上でよろしいでしょうか。

◆市長

そのことについて、何か補足。大丈夫ですか。

◆司会

それでは、そのほかのご質問をお受けしたいと思います。いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。それでは、本日の市長定例記者会見を終了させていただきます。

次回の予定は12月10日、金曜日、午前11時です。